

## はしがき

この報告書は、平成17～20年度科学研究費補助金（基盤研究A(1)）研究課題『企業・卒業生による大学教育の点検・評価に関する日欧比較研究』（課題番号17203041）の、研究成果を最終報告書としてとりまとめたものである。

本科研をスタートするにあたっての背景として、ひとつには国内的に大学教育改革に関わる課題がある。今日、大学教育のアウトカムへの関心が高まり、そのアウトカムに関わる卒業生や企業の声を聴き、人材養成の目標を設定し、カリキュラムを編成する、そういうサイクルが求められている。このこと自体は、公教育の一端を担う大学教育に求められる当然の説明責任の要請である。本科研グループでは、これまでさまざまに卒業生や企業の声を実証的に解明してきたが、その成果が教育プロセスの改善にまで反映されているとはいいがたい現状にある。そこで、このアウトカムの点検・評価からプロセスの教育改善へのサイクルについて、あらためて学術的な検討を行うこととした。いま、本科研の4年間の実施過程を経て、本論でも明らかにするように多くの大学で卒業生調査が実施されている。しかしそれが多くの大学で教育改善までにつながっていない。いま結論するのは早計であるが、ここに大衆化・ユニバーサル化の途を辿りつつあるわが国の大学教育が転換すべき問題のひとつをみる思いがする。今後、観察を継続していくべき研究課題である。

もうひとつは国際的な視野での大学と経済社会システムとの接続性に関わる学術的課題である。本科研で大きな比重を占めるのは、欧州側研究グループとともに実施した国際的な卒業生調査であるが、そこでのテーマが「柔軟性をもった専門的人材」である。今日、グローバル化やポストモダンなどの社会的潮流のもとで、経済・企業社会における官僚制的パラダイムから柔軟性パラダイムへの転換がいろいろな観点から論じられている。このことは、大学における人材養成に反映されるべき国際的に共通する課題であるが、他方で現実の大学は各国固有の歴史的制度である。英国や日本が大学教育を柔軟性のサイドから構築し、欧州大陸系諸国が専門性のサイドから大学を築いてきたとすれば、この共通テーマが要請する大学教育課題への具体的施策は全く異なることがありうる。このことをどのように理解すべきか、本報告書でいろいろな分析、探究を行っているので参照いただきたい。特に日本の大学教育に対して、今日専門分野を超えて共通する議論を展開するというよりも、専門分野に関わる教育を脇に置いた「基礎」「汎用」といった議論が少なくないが、このことを国際的な議論の枠組みのなかに位置づけるとき、およそ志向性として混迷を辿っているように思われる。これまた引きつづき研究を展開すべき基本課題である。

最後になったが、本研究課題を実施する4年間にわたって、多くの関係者にお世話になった。まず卒業生調査にあたって、多くの大学関係者と調査対象の卒業生の皆さんには、実施のご協力・ご回答に感謝申し上げます。また、国内外の特色ある大学等を選定してインタビュー調査を進め、一部報告書でとりあげているが、すべての機関名・個人名を挙げることはできないので、この場を借りてご協力を頂いた皆様に感謝を申し上げます。また、平成17年度からの個人情報保護法施行と本科研調査時期とが重なったため、当初の研究計画の想定以上に多くの交渉・調整が必要となり、また調査実施期間も長期化し、本研究事務局には多くの仕事の負担をかけることになった。研究代表者として、本研究メンバーへの、特に事務局構成メンバーへの慰労と感謝を述べさせていただきます。

平成21年3月

研究代表者 吉本 圭一

## 研究の概要

### 1. 研究組織

#### 研究代表者

吉本 圭一 九州大学・大学院人間環境学研究院・教授

#### 研究分担者（平成 17～20 年度）

小方 直幸 広島大学・高等教育研究開発センター・准教授  
村澤 昌崇 広島大学・高等教育研究開発センター・准教授  
稲永 由紀 筑波大学・大学研究センター・講師  
山田 裕司 宮崎大学・教育研究・地域連携センター・准教授

#### 連携研究者（平成 17～19 年度の研究分担者を含む）及び研究協力者

秋永 雄一 東北大学・大学院教育学研究科・教授  
塚原 修一 国立教育政策研究所・高等教育研究部・高等教育研究部長  
亀野 淳 北海道大学・高等教育機能開発総合センター・准教授  
坂野 慎二 玉川大学・教職大学院・准教授  
米澤 彰純 東北大学・高等教育開発推進センター・准教授  
齋藤 貴浩 独立行政法人大学評価・学位授与機構・評価研究部・准教授  
濱中 義隆 独立行政法人大学評価・学位授与機構・学位審査研究部・准教授  
夏目 達也 名古屋大学・高等教育研究センター・教授  
濱名 陽子 関西国際大学・教育学部・教授  
村山 詩帆 佐賀大学・高等教育開発センター・准教授  
藤墳 智一 宮崎大学・教育研究・地域連携センター・准教授  
大森 不二雄 熊本大学・大学教育機能開発総合研究センター・教授  
石田 宏之 豊橋創造大学・情報ビジネス学部・教授  
江藤 智佐子 久留米大学・文学部・講師  
立石 和子 久留米大学・医学部看護学科・講師  
真鍋 和博 北九州市立大学・キャリアセンター・准教授  
河野 志穂 早稲田大学大学院・教育学研究科・博士課程  
Junko Ladd 科研・研究協力者  
甲斐 純子 福岡教育大学・教育学部・教授

#### 海外研究協力者

Ulrich Telchler ドイツ・カッセル大学・高等教育労働市場研究センター・教授  
John Brennan イギリス・公開大学・高等教育情報研究センター・センター長  
Jean-Jacques Paul フランス・ブルゴーニュ大学・教育経済研究所・所長  
Rolf van der Velden オランダ・マーストリヒト大学・教育労働市場研究センター・統括研究員  
Egbert de Weert オランダ・トゥウェンテ大学・高等教育政策研究センター・主任研究員  
北川 文美 スウェーデン・ルンド大学・准教授

## 2. 研究経費交付決定額

(金額単位;千円)

	直接経費	間接経費	合計
平成17年度	15,800	4,740	20,540
平成18年度	10,200	3,060	13,260
平成19年度	8,200	2,460	10,660
平成20年度	3,400	1,020	4,420
総計	37,600	11,280	48,880

## 3. 研究発表（主要研究成果）

### (1) 学術誌等の学術論文

- ① 吉本圭一「インターンシップ制度の多様な展開とインターンシップ研究」、日本インターンシップ学会紀要『インターンシップ研究年報』、第9号、17-23頁、2006年。
- ② 立石和子・吉本圭一「看護系大学生の職業的な能力（Competence）の自己評価—臨地実習前・後および就職後初期における比較検討—」、『九州看護福祉大学紀要』vol.8、69-81頁、2006年
- ③ 吉本圭一「卒業生を通じた『教育の成果』の点検・評価方法の研究」、大学評価・学位授与機構『大学評価・学位研究』第5号、77-107頁、2007年。
- ④ 吉本圭一・立石和子「大卒看護師の初期キャリアとコンピテンシー形成—看護師・関係者インタビュー分析—」、『広島大学高等教育研究開発センター大学論集』、第39集、223-240頁、2007年。
- ⑤ 吉本圭一・亀野淳・稲永由紀「地域経済団体のインターンシップへの貢献と人材養成観」、日本インターンシップ学会『インターンシップ研究年報』、第10号、22-31頁、2007年。
- ⑥ Keiichi Yoshimoto, Yuki Inenaga, and Hiroshi Yamada, Pedagogy and Andragogy in Higher Education - a comparison among Germany, the UK and Japan-, in European Journal of Education, vol.42, No.1, pp.71-94, Blackwell Publishing, 2007.
- ⑦ 吉本圭一「高等職業教育の体系化と専門学校」、『大学論集』第40集、広島大学高等教育研究開発センター、2008年。(印刷中)
- ⑧ 吉本圭一・立石和子「大卒看護職の初期キャリアとコンピテンシー形成—看護師・関係者インタビューの分析—」、広島大学高等教育研究開発センター『大学論集』第39集、223-240頁、2008年。
- ⑨ 稲永由紀「英国高等教育におけるエンプロヤビリティ(Employability)と就業経験の強調—一元化された「多様な」大学、大卒者の「就業機会保障」、日本インターンシップ学会『インターンシップ研究年報』、第11号、1-7頁、2008年。
- ⑩ 大森不二雄「学歴社会の再構築と人材の流動化—再チャレンジ可能な知識社会への見取り図—」、国際教育学会『クオリティ・エデュケーション』、第1巻、1-17頁、2008年。
- ⑪ 亀野淳「日本的雇用システムの変化と若年層の雇用・人材育成」、『現代社会学研究』、18号、1-15頁、2005年。

- ⑫ 亀野淳「フィンランドの人材育成における高等教育機関の役割ーフィンランドにおけるインタビュー調査を事例としてー」、『北海道大学大学院教育学研究科紀要』、第 98 号、103-112 頁、2006 年。
- ⑬ 亀野淳「エストニアの経済発展・人材育成における高等教育機関の役割ーエストニアにおけるインタビュー調査を事例としてー」、『北海道大学大学院教育学研究科紀要』、第 102 号、1-13 頁、2007 年。
- ⑭ 河野志穂「大学における資格・検定取得支援の現状と背景ー経済・経営・商学系の大学案内にみる資格・検定講座の設置状況」、佐賀大学高等教育開発センター、『佐賀大学高等教育開発センター大学教育年報』、第 4 号、37-56 頁、2008 年。
- ⑮ 多田順子「イギリスの大学におけるエンプロイヤビリティ向上への取り組みーヨーク大学の「ヨーク賞」プログラムを通して」、国立教育政策研究所紀要、135、164-176 頁、2006 年。
- ⑯ 前田由紀子・立石和子「精神科看護師の職務能力と教育訓練ニーズ」、『日本大学看護学会論文集：看護管理』、38 号、240-242 頁、2008 年。
- ⑰ 丸田道子・立石和子「新人看護師と指導者間の看護師像のギャップー効果的な指導を目指してー」、『日本大学看護学会論文集：看護教育』、39 号、51-53 頁、2009 年。
- ⑱ 塚原修一「専門学校の新展開と役割」『日本労働研究雑誌』9 月号、70-80 頁、2005 年。
- ⑲ 長谷川祐介「地方私立大学教員の活動実態と F D 活動への意識ー比治山大学を事例にー」、比治山大学高等教育研究所、『比治山高等教育研究』、第 1 号、19-30 頁、2008 年。
- ⑳ 志々田まなみ・長谷川祐介「広島経済大学の F D (ファカルティ・ディベロップメント) 活動の実態と課題」、広島経済大学、『広島経済大学研究論集』、第 31 巻、第 2 号、41-51 頁、2008 年。
- ㉑ 濱中義隆「短期大学専攻科の研究ー大学評価・学位授与機構による専攻科認定制度との関係を中心に」、『大学評価・学位研究』第 2 号、47-67 頁、2005 年。
- ㉒ 濱中義隆「高等教育システム改革における学位研究の意義ー学位の機能変容と学位授与機構の役割に注目して」、『大学評価・学位研究』第 7 号、1-15 頁、2007 年。
- ㉓ 濱中義隆「『学生の流動化』と進路形成」、『高等教育研究』第 11 集、107-126 頁、2008 年。
- ㉔ 山田裕司「大卒者の就業経験と初期キャリア形成ー日本、イギリス、ドイツ学卒者の比較からー」、日本インターンシップ学会編『インターンシップ研究年報』第 11 号、31-37 頁、2008 年。

(2) 編纂書・雑誌論文等その他

- ① 吉本圭一「職業的コンピテンシーと短大知識の活用」短期大学基準協会、吉本圭一編『短期大学卒業生の進路・キャリア形成と短大評価 調査研究報告書』、26-33 頁、2005 年。
- ② 吉本圭一「就職指導と大学の役割」、早田幸政編『国立大学法人化の衝撃と私大の挑戦』エイデル研究所、116-125 頁、2005 年。

- ③ 吉本圭一「フリーター・ニート問題と義務教育段階での職業観の育成」、小川正人編『義務教育改革—その争点と地域・学校の取り組み—』、教育開発研究所、117-134 頁、2005 年。
- ④ 吉本圭一「調査の目的と概要」(1-8 頁)、「アンケート調査の概要」(29-56 頁)、「海外就業体験に係る海外調査報告」(109-130 頁)、宮本みち子との共著「キャリア形成における海外就業体験とその実施に係る提言」(131-134 頁)、海外職業訓練協会『海外就業体験が若年者の職業能力開発・キャリア形成に及ぼす影響に関する調査研究委員会報告書』、2005 年。
- ⑤ 吉本圭一「卒業生調査を通して見た短大教育」『IDE 現代の大学教育』2005 年 11 月号、民主教育協会、70-76 頁、2005 年。
- ⑥ 吉本圭一「生涯学習の推進にかかる教育・職業資格の国家的体系の役割 —日本の学校教育制度の資格対応性に関して」、塚原修一編(2006)、55-65 頁、2006 年。
- ⑦ 吉本圭一「教育の成果をどう評価するか?—卒業生調査からのアプローチ—」大学評価・学位授与機構『大学の諸活動に関する測定指標の調査研究 報告書』、47-86 頁、2006 年。
- ⑧ 吉本圭一「地域経済団体等における大卒者の能力観と能力育成段階の認識」塚原修一編『地域における経済団体等の人材育成事業及び大学等との連携に関する調査—新しい時代における大学と産業社会との相関システムの構築に関する調査研究 中間報告書 8』、国立教委育成策研究所、2006 年。
- ⑨ Ulrich Teichler 著、吉本圭一・稲永由紀・中島弘和訳「ヨーロッパ諸国における大卒者の雇用と職業」、馬越徹・吉川由美子監訳『ヨーロッパの高等教育改革』玉川大学出版部、165-188 頁、2006 年。
- ⑩ Keiichi Yoshimoto, 'Training and Wandering of University Graduates in Germany and Japan', Barbara Kehm ed., "Looking Back to Look Forward", Werkstattberichte 67, INCHER, Kassel University, pp.139-157, 2007
- ⑪ Ulrich Teichler 著、吉本圭一訳 「外から見た日本の高等教育研究」、日本高等教育学会 紀要『高等教育研究』、玉川大学出版部、第 10 集、165-177 頁、2007 年。
- ⑫ 吉本圭一「短大教育における総合評価」、安部恵美子編『短期大学卒業生のキャリア形成に関するファーストステージ論的研究』、平成 16 年度～平成 18 年度科学研究費補助金・研究成果報告書、163-174 頁、2007 年。
- ⑬ 吉本圭一「大学教育と職業への移行」、本田由紀・平沢和司編『学歴社会・受験競争』日本図書センター、208-227 頁、2007 年。
- ⑭ 吉本圭一・江藤智佐子「インターンシップの多様な展開とキャリア教育」、高良和武監修『インターンシップとキャリア』、学文社、31-51 頁、2007 年。
- ⑮ 吉本圭一編『「短期大学ステークホルダー調査」調査研究報告書』、短期大学基準協会、全 66 頁、2007 年。
- ⑯ 吉本圭一「専門教育の基礎としてのキャリア教育とコンピテンシー」、立石和子編『大卒看護師に必要な能力の初期キャリア形成過程に関する研究—総合病院アンケート調

- 査対象一』、平成 17-18 年度文部科学省研究費補助金（基盤研究 C）・中間報告書、11-14 頁、2007 年。
- ⑰ 吉本圭一「職業教育体系構築が意味するもの」、専修学校教育振興会『専修教育』No.28、17-28 頁、2008 年。
- ⑱ 吉本圭一編『短期大学ステークホルダー調査ハンドブック—短大教育の飛躍を目指して—』全 87 頁、2008 年。
- ㉑ 吉本圭一「インターンシップによる教育の効用について」、『職業研究 2008 秋季号』、雇用問題研究会、20-23 頁、2008 年。
- ㉒ 稲永由紀「地域経済団体の人材育成事業への関与は拡大するの—インターンシップ事業非実施の団体の動向分析」、国立教育政策研究所『地域における経済団体等の人材育成事業及び大学等との連携に関する調査（「新しい時代における大学と産業社会との関連システムの構築に関する調査研究」中間報告書 8）』、83-93 頁、2006 年。
- ㉓ 小方直幸「大学から職業への移行をめぐる日本的文脈」、山内乾史編著『教育から職業へのトランジション』、東信堂、32-44 頁、2008 年。
- ㉔ 小方直幸「アウトカムアセスメントの可能性—①学生調査からみたアウトカムの構造」、『IDE 現代の高等教育』、No. 507、IDE 大学協会、64-68 頁、2009 年。
- ㉕ 小方直幸「アウトカムアセスメントの可能性—②教育改善に繋がるアウトカム評価」、『IDE 現代の高等教育』、No. 508、IDE 大学協会、64-68 頁、2009 年。
- ㉖ 河野志穂「高等教育機関の立地の現状とその評価」、地域高等教育政策研究会、(財)日本開発構想研究所後援、『地方自治体の高等教育政策に関する調査研究報告書』、3-15 頁、2008 年。
- ㉗ Fumi Kitagawa, '(Post-) Mass Higher Education and Japanese Elite Universities' in Palfreyman, D. and Tapper, T. (eds.), \*Structuring Mass Higher Education: The Role of Elite Institutions\*, New York: Routledge, 257-280, 2008.
- ㉘ 坂野慎二「ドイツの教員養成の取り組みから日本が学べること」、VERD14 号、Benesse 教育研究センター、29-32 頁、2008 年。
- ㉙ 坂野慎二「ドイツにおける教員養成・免許・採用・研修」、若井彌一編著『教員の養成・免許・採用・研修』、教育開発研究所、243-247 頁、2008 年。
- ㉚ 塚原修一（研究代表者）『高等教育市場の国際化状況における政府と質保証の役割』平成 15-17 年度科学研究費補助金基盤研究(B)研究成果報告書、全 235 頁、2006 年。
- ㉛ 塚原修一（編）『高等教育市場の国際化』玉川大学出版部、全 262 頁、2008 年
- ㉜ 長谷川祐介「設置者別にみた FD 活動に対する意識と行動の変化」、有本章編『FD の制度化に関する研究（3）—最終報告書—』、広島大学高等教育研究開発センター、53-67 頁、2008 年。
- ㉝ 長谷川祐介「生活時間」、有本章編著『変貌する日本の大学教授職』、玉川大学出版部、198-221 頁、2008 年。
- ㉞ 濱中義隆「複数の高等教育機関を移動する時代に備えて—曖昧化する『学位』、その質保証をどうするか』、『カレッジマネジメント』、132、リクルート、5-9 頁、2005 年。

⑤ 山田裕司 「日英大卒者のキャリアと企業のキャリア支援」 広島大学高等教育研究開発センター『RIHE 高等教育研究』COE 研究シリーズ 17、53-68 頁、2005 年。

(3) 共編著等の共同出版物

① A.Halsey 他編、住田正樹・秋永雄一・吉本圭一編訳『教育社会学—第 3 のソリューション—』、九州大学出版会、全 660 頁、2005 年。

② 吉本圭一編『柔軟性と専門性—大学の人材養成課題の日欧比較—』(高等教育研究叢書) 広島大学高等教育研究開発センター、2009 年。(印刷中)

1. 吉本圭一 「日欧大企業における大卒初期キャリア管理と異文化環境への適応」
2. 吉本圭一 「大学教育のキャリア形成にかかる遅効性」、
3. 吉本圭一 「高等教育学位の社会的レバンスに関する日仏比較」
4. 稲永由紀 「欧州高等教育におけるエンプロヤビリティ論の位相—流動性、量的拡大、学位の二段階モデル—」
5. 小方直幸 「職場における大卒者の能力発揮」
6. 大森不二雄 「英国の高等教育とエンプロイアビリティ」
7. 亀野淳 「組織のイノベーションと知識活用」
8. 多田順子 「英国ヨーク大学におけるエンプロイアビリティ向上への取り組み—キャリアサービスの支援と活動プログラム」
9. 立石和子 「看護職の大学教育効果に関する日欧比較検討」

③ Jim Allen, Yuki Inenaga, Rolf van der Verden and Keiichi Yoshimoto, (eds.), "Competencies, Higher Education and Career in Japan and the Netherlands", Springer (Pb.), pp.1-268, 2007.

1. Naoyuki Ogata, "Competencies Acquired at University and Required in the Workplace.", pp.51-76.
2. Keiichi Yoshimoto and Hiroshi Yamada, "University Education and its Relevance to Working Life: Selection, Education and Career Effects.", pp.97-127.
3. Yuki Inenaga, "Does It Provide Opportunities for Career development of men and women? ", pp.225-247.

④ 立石和子・吉本圭一・谷岸悦子・前田由紀子 「大卒看護師に必要な能力の初期キャリア形成過程に関する研究—総合病院アンケート調査— (中間報告書)」、2007 年。

⑤ 立石和子・吉本圭一・谷岸悦子・前田由紀子 「大卒看護師に必要な能力の初期キャリア形成過程に関する研究—総合病院アンケート調査— (最終報告書)」、2007 年。

(4) 学会等口頭発表

① 吉本圭一・塚原修一・川島啓二・亀野淳・稲永由紀・福岡哲朗・岡本信弘・江藤智佐子 「地域経済団体のインターンシップへの貢献と大学教育への要望」、日本高等教育学会第 8 回大会 (九州大学)、2005 年。

② 吉本圭一 「卒業生調査は役に立つか—日欧比較調査から—」 日本高等教育学会第 8 回大

- 会（九州大学）（課題研究）、2005年。
- ③ 吉本圭一「インターンシップの多様な展開に向けて」日本インターンシップ学会第6回大会（東京女学館大学）（パネルディスカッション）、2005年。
- ④ 吉本圭一、亀野淳、稲永由紀「地域経済団体のインターンシップへの貢献と人材養成観」、日本インターンシップ学会第7回大会（文教大学）、2006年。
- ⑤ Keiichi Yoshimoto & Yuki Inenaga, "Employers' Perspective on University Graduates in UK and Japan",CHER 19th Annual Conference, Kassel University, 2006.
- ⑥ 吉本圭一、小方直幸、稲永由紀、山田裕司「卒業生による大学教育の成果の点検・評価に関する日欧比較研究」、日本教育社会学会第59回大会（茨城大学）、2007年。
- ⑦ 吉本圭一、小方直幸、稲永由紀、山田裕司「日欧大卒者の大学経験と初期キャリア」日本高等教育学会第10回大会（名古屋大学）、2007年。
- ⑧ 吉本圭一「インターンシップを通じた教育の接続と統合」日本インターンシップ学会第8回大会（北海道大学）、2007年。
- ⑨ 吉本圭一「高等職業教育の体系化と専門学校」日本高等教育学会第11回大会（東北大学）（課題研究）、2008年。
- ⑩ 吉本圭一・江藤智佐子「高等教育から女性事務職への移行の構造変容に関する研究」、日本教育社会学会第60回、大会発表要旨集録、185-186頁、2008年。
- ⑪ 稲永由紀「大学教育における就業経験とエンプロヤビリティ形成」、日本インターンシップ学会第8回大会（北海道大学）、2007年。
- ⑫ 大森不二雄「大学院の学歴価値と雇用の流動性—可視性・流動性連関仮説—」、日本教育社会学会第60回大会発表要旨集録、209-210頁、2008年。
- ⑬ 大森不二雄「企業や社会の求める人材像と教育」、教育システム情報学会第33回全国大会、パネリスト、2008年。
- ⑭ 亀野淳「高等教育の有用性と就業している組織の特色との相関に関する実証研究—日欧学卒者アンケート調査結果をもとに—」、人材育成学会第5回大会、2007年。
- ⑮ 亀野淳「大学時代の学習状況や活動内容と卒業後の能力との関連に関する実証分析—北海道大学における卒業生アンケート調査結果から—」、日本高等教育学会第11回大会、2008年。
- ⑯ 亀野淳「再考 体験型インターンシップの教育的効果」、日本インターンシップ学会第9回大会、2008年。
- ⑰ 亀野淳「大学時代の学習・生活と卒業後のキャリアの関連に関する実証研究—北海道大学の卒業生調査の実証分析から—」、人材育成学会第6回大会、2008年。
- ⑱ 河野志穂「ビジネス系検定における学生受験者増加の背景—販売士を事例として—」、日本教育社会学会第60回大会発表要旨集録、333-334頁、2008年。
- ⑲ Kazuko Tateishi, Etsuko Tanigishi, Yuko Maeda, Setsuko Koga, "Occupational competence of nursing University students",ICN Conference Yokohama,2007.
- ⑳ 立石和子・谷岸悦子・前田由紀子「看護系大学教育に要求されているコンピテンシーの



分析 卒業生のアンケート調査より」、日本看護学教育学会誌、第 18 巻、110 頁、2008 年。

㉑ 立石和子・谷岸悦子・前田由紀子「新人看護師採用時に病院管理者が求めているコンピテンシー」、日本看護研究学会雑誌、31 巻 3 号、137 頁、2008 年。

㉒ 有本章・長谷川祐介・山野井敦徳・村澤昌崇「教員調査からみた F D 活動の現状と課題」、日本高等教育学会第 11 回大会、2008 年。

㉓ 有本章・大膳司・黄福涛・長谷川祐介・江原武一「大学教授職の変容に関する研究(2) ー日・米・独の比較ー」、日本教育社会学会第 60 回大会発表要旨集録、43-48 頁、2008 年。

㉔ 村山詩帆「大学教育の受容メカニズムをめぐる日欧比較ー11 カ国の OECD 加盟国を中心としてー」、日本教育社会学会第 60 回大会発表要旨集録、187-188 頁、2008 年。